
9年ぶりに、新学科「工芸デザイン学科（認可申請中）」を2023年開設予定 アートとデザインの領域をまたぐ、ハイブリッドな人材の育成へ

東北芸術工科大学（学長：中山ダイスケ、以下本学）は、2022年3月23日の理事会において、2023年4月に新学科「工芸デザイン学科」を芸術学部開設するため、正式に文部科学省への認可申請手続きを進めることを決定いたしました。本学で新学科が設立されるのは、2014年に開設したコミュニティデザイン学科以来9年ぶりです。

社会が成熟するなか、機能やステータスとしてのモノを求める時代から、多様な価値観、自己実現を大切にす時代へと変遷していることを踏まえ、これからはアートとデザインを分けて考えるのではなく、双方を理解し創作に臨むことが必要であると考え、これまで芸術学部美術科の専門コースだった「工芸」と「テキスタイル」を統合し、「工芸デザイン学科（以下、本学科）」として新たなスタートを切ります。

本学科では、伝統的な技術や技法を知り、現代的な表現も取り入れて作品として昇華させることのできる力と、そうした力や生み出されたモノの持つ価値や課題解決力を客観的に捉え、新しい価値として社会的に伝えることのできる力を身に付けた、ハイブリッドな人材育成を目標としています。そのためにも、さまざまな教育連携を柱に地域の工芸・素材のリデザインにも積極的に取り組んで参ります。

つきましては、本件情報をより多くの方に知っていただきたく、取材・広報のお願いを申し上げます。

■新学科概要

- 学科名称 : 工芸デザイン学科（認可申請中 ※1）
- 定員 : 45名／学年
- 学科長 : 藤田 謙（教授／専門：金工、ジュエリー）
- 開設予定時期 : 2023年4月（本学科の学生募集活動は本年より開始いたします）

* 現行の芸術学部美術科の「工芸コース」および「テキスタイルコース」に在籍する学生および新入生については、新設学科に移籍はせず、既存の所属名称・カリキュラムにて学修を行います。

※1：現在、当学科は文部科学省に認可申請中です。そのため、同省の指導により報道等で学科名を記載いただく際は「工芸デザイン学科（認可申請中）」と表記願います。

工芸デザイン学科の概要については別添資料をご参照ください。

■本件に関する問い合わせ先 : 東北芸術工科大学 入試広報課

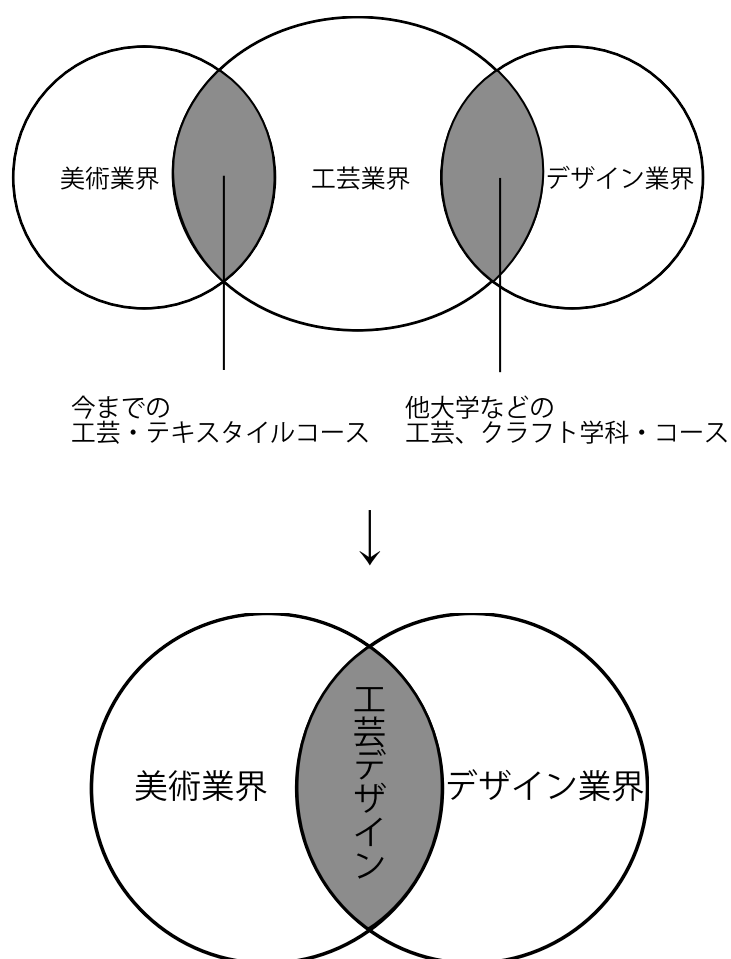
TEL : 023-627-2246 FAX : 023-627-2081（平日 9:00～17:15）、MAIL : public@aga.tuad.ac.jp

■工芸デザイン学科（認可申請中）について

工芸デザインとは、製品デザインのうちでも作者自身の手で作るものを工芸と言い、金属工芸、木竹工芸、陶芸、染織、ガラス工芸、装身具など、「量産できない工芸品のデザイン」を意味します。したがってこの分野では、デザイナーが同時に工芸家でもあります。

工芸デザインには「現代美術＝アート」と「問題解決＝デザイン」の2つの側面があります。社会が成熟し、機能やステータスとしてのモノを求める時代から、多様な価値観、自己実現を大切にする時代へと世の中が変遷してきているなかで、アートとデザインを分けて考えるのではなく、双方を理解し、創作に臨むことがこれからの工芸には必要であると考えます。

そのため工芸デザイン学科では、伝統的な技術や技法を知り、現代的な表現も取り入れながら作品として昇華させることのできる力と、産業、生活に付する課題を解決し、その価値を的確に伝えることのできる力、すなわちアートとデザインの領域をまたいだ力を身に付け、アートとデザインの領域を行き来しながら日本の工芸に新たな潮流を生み出すことのできるハイブリッドな人材＝工芸(モノ)を用いてコトをデザインする人材＝を育成します。



◎特色① アートとデザインの領域をまたいだハイブリットな能力を身に付けた人材の育成

これまでの工芸コース、テキスタイルコースは、しっかり素材に向き合い確かな技術を身に付け、高いクオリティの作品を完成させることによって、教育の質を社会に示してきました。

工芸デザイン学科では、個としての「技術力」はもちろん、素材や技術の背景にある歴史的・文化的文脈を読み解き、自身の制作に組み込むことのできる「思考力」、特長を明確に伝えるための「プレゼンテーション力」、加えて、「企画力」、「マーケティング力」を身に付けたデザイナーが同時に工芸家という新しいクリエイター像を確立します。

卒業時には、自らがつくりたい作品を創造する、いわゆるプロダクトアウト型としての工芸家と、顧客が求めているものを調査し、それに基づいた作品（商品）を企画開発していこうとするマーケットイン型のデザイナーとに進路は分かれていきます。

特色② 伝統工芸産業との教育連携

産官学連携教育のノウハウを生かし、新学科では東北の伝統工芸産業との教育連携を組み込んでいきます。素材ごとの職人の技を現場で体験し、自らの創作の幅を広げつつ、素材の可能性を知る者として、「作品」を顧客の課題を満足させる「製品」（プロダクト、サービス）として、適切に市場へ受け入れられる状態をつくり出すことのできる人材を地域に輩出していくことで、地方の伝統工芸産業の価値を高めていきます。